



仏教菩薩資本主義と社会契約主義的分配観

仏教経済思想と社会契約主義的分配観の比較分析

学術発表スライ
ド

2025年6月22日

目次



1. 研究背景および問題提起
2. 仏教菩薩資本主義の概念と特徴
3. 仏教菩薩資本主義の歴史的背景
4. 仏教の重点経済活動と教理
5. 仏教の国家観と分配政策
6. 仏教の価値理論：縁起論と労働価値論
7. 社会契約主義との比較分析
8. 比較表を通じた体系的整理
9. 問題点と改善方案
10. 結論および今後の課題

研究背景および問題提起



- 仏教の経済思想は近年インド、生態主義の拡散とともに新たに注目
- 儒教、道教の経済思想との差別性：生産より分配に集中、社会契約主義との比較
- 較を通じて仏教菩薩資本主義の分配観を照明

仏教菩薩資本主義の概念と特徴



- 縁起論（縁起論）に基づく経済思想

すべての存在と現象は相互の因果関係で連結されている

- 分配中心的、倫理中心的な経済思想

効率性より衡平性と正義を強調する公正な分配の

- 重視

相互の利他性と菩薩精神に基づく経済観

人間の義務と共同体的福祉、自然の循環性の強調

仏教菩薩資本主義の歴史的背景



- 西洋への伝播：マテオ・リッチが西洋に仏教を紹介
 - 中世ヨーロッパでも「菩薩」が「ヨサファト」という名で知られる

カントの義務主義倫理学に影響

- 二律背反の原理は仏教の「中（中）」、「空（空）」、「0（零）」概念と類似

● ショーペンハウアーとニーチェの仏教思想の受容

ショーペンハウアー：物自体は「意志」であり「苦（苦）」であると解釈

ニーチェ：仏教の自己救済思想と「自己中心の回復」に注目



仏教の重点経済活動と教理

- 成住壊空（成住壊空）の循環観 - 経済活動の循環性

虚空（空）が崩れては成る過程：貯蓄－生産－流通－分配

- 縁起（縁起）による分配中心的な経済活動

財産は縁起によって生じ、階級を認めず公正な分配を強調

- 効率性よりは衡平性と正義を強調

「XはXでも－Xでもない」 - 動き自体より分配の公正性を重視

- 正しい経済活動に対する現実的態度

釈迦如来：善悪を区別できる人の経済活動を勧奨

仏教の国家観と分配政策



- ブッダの分配政策：社会的問題は経済的不均等に起因し、国家は再分配政策を通じて社会的公正を実現すべきである
- ロールズとの類似点：最低所得層の厚生を最大限に引き上げる所得分配政策は公平であり、分配の道徳的命令を強調
- 究羅檀頭経（クータダンタ経）の事例：一時的な貧民救済ではなく、生産基盤の提供、資本支援、賃金支給などを通じた自立基盤の構築

国家は貧しい農夫に生産基盤を、商人に資本を、雇用者に賃金を支払い、財貨の均等分配を実現

仏教の価値理論：縁起論と労働価値論

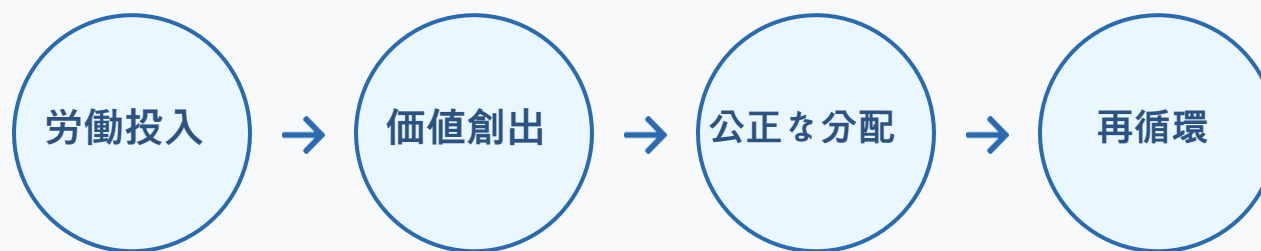


- **縁起論（縁起論）：すべての現象は因果関係で相互に連結される**

万物は独立して存在せず、互いに依存し循環する関係

- **アダム・スミスの労働価値論との類似点**

価値の根源は人間の労働 – 500ウォンの商品より1,000ウォンの商品が高い理由は、より多くの労働が投入されたためである



- **「蒔いた分だけ収穫する」 - 縁起論と労働価値論の原則**

- 労働の対価としての商品：人々は労働の対価に応じて公平に分配を受けられる

社会契約主義との比較分析



● 哲学的アプローチの差異

社会契約主義

- カントの義務論的倫理学
- ロールズの正義の原則中心
- 契約を通じた社会的結束の強調
- 最低所得保障の福祉国家の志向

菩薩資本主義

- 縁起論的世界観
- 循環と共同体連帯の中心
- 無限の相互依存性の強調
- 功德、報恩、貧窮の観点からの福祉

● 正義と循環の優先順位の差異

- 社会契約主義は個人の自由と契約の遵守を重視し、仏教は縁起的依存関係と倫理的義務を強調
- 両思想はともに公正な分配を重視するが、その哲学的根拠とアプロ

比較表を通じた体系的整理



区分	菩薩資本主義	社会契約主義 / 古典派経済学
影響史	カント、ショーペンハウアーなどに影響	社会契約主義的平等思想に影響
理論	縁起論による公正な分配	効率性より公正性の重視
重点経済活動	正しい分配のための生産	経済論理ではなく正義の原則の重視
国家観	中立国家、社会公正性の維持	基礎的社会保障国家
社会 / 平等観	功德田、報恩田、貧窮田	最低所得の維持
価値理論	無縁起、無分配	労働価値論
長所・短所	対称性の回復、倫理の回復	経済学への義務の導入による共同体発展の契機
問題点	縁起の境界が不透明	契約違反時の対策の名分の欠如
相違点	正義より循環の重視	循環より正義の重視

問題点と改善方案



仏教菩薩資本主義

⚠ 縁起の境界が不透明

複雑な社会において縁起論的公正性の境界設定が困難

⚠ 効率性、革新の不足

分配中心により経済成長の
原動力が弱化する

💡 改善方案：縁起論の補完

個人の解脱を超えて共同体尊重へと拡張

社会契約主義

⚠ 契約違反時の対策の名分の欠如

社会契約の破棄時の対応策の不足

⚠ 人間と社会に対する不信

共産主義崩壊後に現れた現代の危機

💡 改善方案：義務遵守と連帯

報恩精神と共同体的紐帯の回復

結論および今後の課題



- 両思想の現代的意味

仏教の縁起・循環中心の思想と社会契約主義の正義・義務中心の思想の統合的アプローチが必要



生態主義と持続可能な分配の観点

環境危機と人間疎外の解決のための生態学的経済観への変貌の必要性、仏教の循環論的経済思想を通じた価値論の再解釈と分配の公正性の回復

- 今後の研究方向

菩薩資本主義の縁起論的特性と社会契約主義義務論の相互補完的発展の模索、共同体的分配と個人的義務の均衡ある経済倫理体系の構築



人間と自然が調和的共存を成す経済モデルの提案

仏教の「対称性の回復」と社会契約主義の「共同体発展」哲学の現代